

国内研修 研修成果報告書

研修概要

研修テーマ：朝鮮人強制労働の歴史を現地で学び大学生の立場での向き合い方を考えると共に、地域の歴史を知る重要性を理解する。

研修場所：北海道幌加内町 笹の墓標強制労働博物館・幌加内高校

研修期間：2026年1月27日(火)～1月30日(金)

研修参加人数：1名

1. 研修動機

私は高校時代の多くを北海道の幌加内町で過ごしたことがきっかけで地域づくりに興味を持ちました。幌加内町をはじめ日本の過疎地域には課題が多くあり、私は今後そういった課題の解決に貢献したいと考えています。その上で、大学の講義を通して、地域で活動するには住民の方の想いを知り、想いを汲み取った行動や提案をすることが大切だと学びました。そして、実際に現場に行くことが重要であることも実感しました。私は、講義を通して、住民の方の想いだけでなく今は住んでいなくても過去にその地域と関わりがあった人や、その地域の歴史と深く関係がある人についても知識を身につけることで、より人々の願いを汲み取った暮らしが良くなる取り組みができるようになるのではないかと考えました。そのように考えている中、幌加内町を舞台にした小説「笹の墓標」を読み、2年間を過ごした幌加内という地に一切教えられることがなかった朝鮮人強制労働という歴史があることを知りました。朝鮮人強制労働は、私が大好きで幌加内町の大きな魅力の一つだと考えている朱鞠内湖で行われていました。その事実を知らなかったことにショックを受け、今後も地域に関わりたいと考えている以上学ぶ必要があると考え、訪問を決めました。また、今回計画の段階では予定していなかった幌加内町出身で幌加内高等学校の実習助手の先生へのインタビューも急遽行いました。

2. 研修先の概要と現状

<幌加内町について>

北海道上川管内西部にある町。旭川市の北に位置する。そばの生産量と作付面積が日本一の町。また、日本最大の面積の人工湖朱鞠内湖がある。人口減少が急速に進んでおり、767km²の面積の町に人口はわずか1,198人。過去の調査では、人口密度が日本一低い町と言われたこともある。

<朝鮮人強制労働について>

1935年から1943年まで朱鞠内の地で名雨線鉄道工事・雨竜ダム建設で日本人と朝鮮人が強制労働に従事させられました。200人を超える犠牲者がおり、彼らは朱鞠内共同墓地の奥に埋葬され、忘れ去られた死者も少なくありませんでした。1976年、朱鞠内の光顕寺で空知民衆史講座の人々が犠牲者埋葬地を調査し、1980年から光顕寺檀家と協力して遺骨の発掘に取り組みました。その後、遺骨を届ける活動やワークショップが続き、2024年に現在の笹の墓標強制労働博物館が完成し、歴史を伝え交流する場となっています。

3. 研修の流れ

・1月27日(火)

終日 移動

・1月28日(水)

午前 移動・笹の墓標強制労働博物館館長矢嶋さんへインタビュー・見学

午後 インタビュー続き・朱鞠内地区の方々と交流

・1月29日(木)

午前 移動・深名線資料館見学、図書館で資料探し

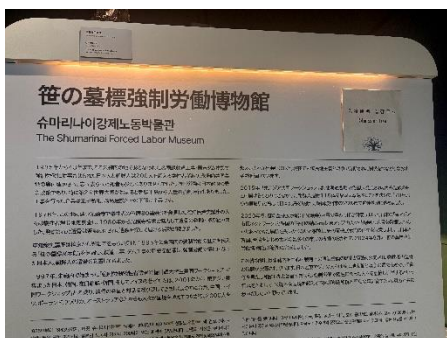
午後 幌加内高等学校実習助手澤田先生へインタビュー

・1月30日(金)

終日 移動

4. 研修内容

1月28日に笹の墓標強制労働博物館へ行き、展示の見学と館長さんへのインタビュー、旧光顕寺などの見学を行いました。まず博物館の展示物と資料を見させてもらいました。強制労働の当時の状況とこれまでの取り組みが写真と共に説明されており、インターネットでは知ることができなかった当時の労働の様子を知ることができました。実際のダム建設時の写真もあり、今の美しい姿の湖と見比べながら見て回りました。私が見てきた朱鞠内湖の景色はとにかく美しく癒される風景でしたが、ダム建設時はトロッコが走る線路やはしご、建築物があり、人造湖という言葉の意味を理解できました。展示の中には位牌や墓標もあり、胸がぐっと苦しくなりました。投影されているスライドには犠牲者の名前や出身地の紹介があり、私と同じくらいの年齢で亡くなっている方がいることや遠くから強制連行された方がいることを実感し、惨さを感じました。自分で調べるだけでは知らなかった犠牲者の本名を知ることが、一人の人の死を知ることになり、事実の重みを感じました。また、遺骨を遺族のもとに返還しようとした時、強い言葉をかけられたり訪問を拒絶させられたりしたこともあると知り、現在幌加内町と関わりがなくても複雑な想いを町に抱いている人がいるのだと気付きを得ました。これらの展示を見て、強制労働の基本的な知識を身に付けることができました。



次に館長の矢嶋さんに雨竜ダムや旧光顕寺の場所、記憶継承碑の見学に連れて行ってもらいました。写真と同じ角度から現在の雨竜ダムを見て、当時働いていた人々の様子を想像しました。外に出ると空気が冷たく雪がかなり積もっており、この地で労働させられた人々がどれほど過酷な環境にいたか実感することができました。寒さだけでも命を落とす要因になったと思います。旧光顕寺は博物館の真後ろにあったそうです。現在は雪の重さにより倒壊したことから形はなくなっていますが、跡地を見学させてもらいました。記憶継承碑は北海道の他の強制労働の地に置く予定だったものが事情により置けなくなったため、この地に建てられることになったと教えていただきました。また、つい先日韓国人の団体がぜひ雪かきをさせてほしいと博物館に願い出て、記憶継承碑の周辺の雪かきをしてくださったそうです。この地の歴史を忘れない人々の力により、成り立っていくのだと感

じました。記憶継承碑は表は日本語、裏は韓国語で書かれておりその点も印象的でした。



次に、館長さんにインタビューをさせていただきました。強制労働に繋がったダム建設には王子製紙という会社が事業を拡大する思惑が関係していること、犠牲者の数は少なくとも 200 人であり、実際に労働した人数から考えるともっと多くいる可能性が高いこと、笹の墓標強制労働博物館は町として扱いが難しい面があり旧光顕寺から建て直したことで観光場所として町の HP に載せてもらえるようになったことなどをお話していただきました。また、私がこの日に宿泊するレークハウスが労働者が生活していたタコ部屋があった場所だと教えていただき、歴史の重みと時の流れを感じました。館長さんからのお話は、朝鮮人強制労働の歴史の背景や詳細を知ることに関わり、直接聞くことができ良かったと強く思いました。

その後、2月に開催されるワークショップの打ち合わせとワークショップ運営に関わる朱鞠内のみなさんとの交流会に参加しました。ワークショップは私も参加者側として参加したいと思っていたものだったため、運営側の計画の立て方を聴くことができ貴重な経験になりました。参加者の人数も現時点で想像以上に多く、この博物館とワークショップの必要性を実感しました。風化させないためにワークショップは今後も続けていく必要があると思いました。夜はご飯を一緒に食べながらみなさんのお話を聞き、交流させてもらいました。夜ご飯は朱鞠内に住む韓国人の方が作ってくださり、食を通して学びを深めることができました。朱鞠内のみなさんは博物館や矢嶋さんの存在、少子化と人口減少が進む朱鞠内地区への想い、町全体や役場職員の方針についての意見を教えてくださいました。まず、博物館や矢嶋さんの存在については、それが交流の場にもなっていることに感謝しており、その言葉により矢嶋さんの関係の築き方が上手なのだと感じ、地域に入っていく人の姿勢で大切なことを学ばせてもらった気がしました。朱鞠内地区への想いと町の方針については、住民の方々のリアルな声を聴くことができ、足を運んでよかったと強く思いました。フィールドワークの大切さを実感しました。具体的には、町に対して「地域

住民全体の声を聴いていない・聴く気がない」ということを感じており、朱鞠内地区の今後を自分達で真剣に考えていることがわかりました。その背景としては、役場の方が朱鞠内地区の保育園等の今後について説明に来た際、説明会に数人しか集まっていなかったため、私たちの総意に関しては「地域みんなの声を聴いてほしい」と伝えたと、役場の方からは数人しかいないこの場が「みなさんに説明している」と返されたことを話してください、大学の授業で聞いた話や学んだことと重なると感じました。住民主体のまちづくりや行政と住民の関係性についてもっと学びたいと思うきっかけになりました。難しいことではあるかもしれないけれど、住民の立場に立ち、一人ひとりの声を聴くことができる人になりたいと強く思いました。

翌日は、宿泊したレークハウスのスタッフの方にお話をお聞きしました。その方は、朝鮮人強制労働のワークショップに参加したことがきっかけで朱鞠内に惹かれ、移住してレークハウスで働いているとのことでした。他にもレークハウスのスタッフの方の中には移住してきた方がいるそうです。ワークショップが移住のきっかけになったパターンもあると知り、驚きました。その後、深名線資料館と図書館で資料を通して知識を深めました。深名線資料館では、深名線が廃線になった流れや当時の駅舎付近の地域の様子を知ることができ、人口が多かった時代の幌加内町について学ぶことができ刺激を受けました。図書館では幌加内町の資料を読みました。漫画で説明されているものもあり、わかりやすく感じました。

その後、幌加内高等学校に行き、幌加内町出身で実習助手として働いている澤田先生にお話を聞きました。これは当初は予定しておりませんでしたが、資料探しだけでは時間が残るため連絡をしたところ快諾して下さったため、お話を聞きました。深名線が走っていた頃の町の様子を聞くと、今は3軒ほどしかお店がない通りに当時は長い商店街があったこと、深名線の廃線とともに人口が減少していったことを教えてくださいました。朱鞠内湖の朝鮮人強制労働の取り組みにも参加したことがあるそうで、関係のあるお寺の住職さんについても紹介できると話してくださいました。当時の幌加内町の様子は今では想像できないことが多く、お話を聞く中で驚くことが多くありました。町を知る方にお話を聞くことの大切さを実感し、今後も町と関係がある方にお話を聞いていきたいと思いました。



5. まとめと今後の展望

今回の国内研修を通して、実際に現地へ行って関係者の方や地域の方に話を聞くことの大切さを実感しました。また、現地で自分の目を見て学ぶことで想像しながら理解することができ、インターネットや本では気づけないことを見つけられました。さらに、地域住民のみなさんの声を聴いたことで、地域づくりに関わる人が住民の声を汲み取り、現状を住民の立場に立って考えることがどれだけ大切か身を持って感じました。どのような機会でも住民の声を聴き、想いや願いを引き出すのが良いのか学んでいきたいとより思いました。館長さんから常時ボランティアを募集しているのでぜひ来てくださいと言っていたので、今後も関わっていきたいです。国内研修を通して、幌加内町の歴史を知り、関わる方々の想いを知り、これから学びたいことや関わりたい形を見つけることができました。

参考文献

・ 笹の墓標強制労働博物館 <https://www.sasanobohyo.com/>

・ 幌加内町観光協会 笹の墓標強制労働博物館 [笹の墓標強制労働博物館 - 幌加内町観光協会](#)